

感染症 抑えきれぬ 日本

新型インフルエンザにジカ熱、エボラ出血熱など感染症は世界で流行を繰り返し、人類を脅かし続けている。医療の進んだ日本も決して安心はできない。結核は減少しつつあるものの、新規感染は世界保健機関(WHO)が目標とする基準を今も上回りG7諸国では最悪。エイズも世界的に新規感染が減少する中で、高止まりが続く。梅毒はここ5年で5倍と急拡大しており、克服したはずの感染症が再び勢いを取り戻す恐れもある。

25

結核 先進国で後れ

(結核罹患率。主要7カ国、人口10万人あたり)



日本

20



15

10

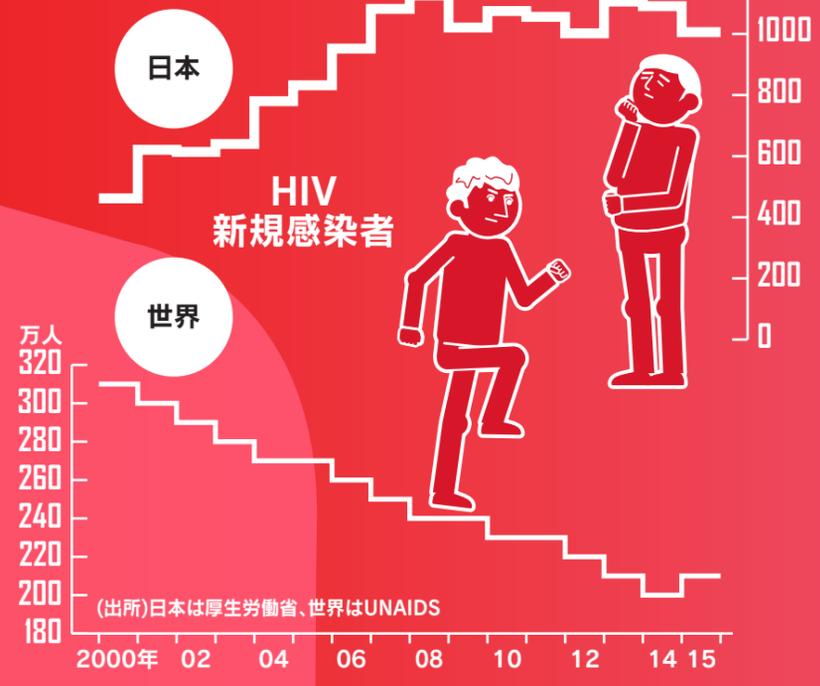
WHO目標



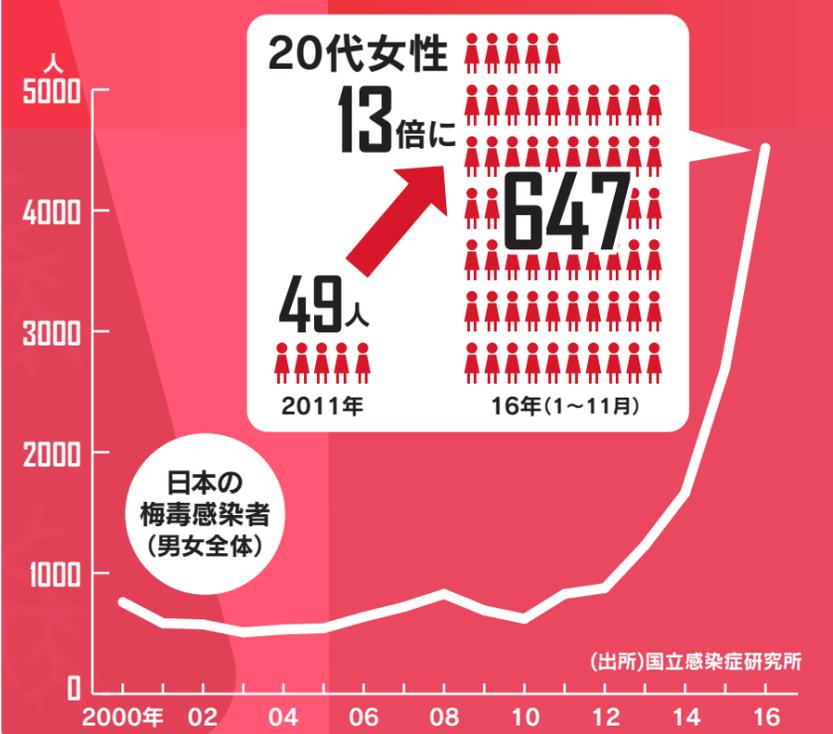
電子版で「もっと発見！」
感染症の警告 人間は脅威に勝てるか
日経ビジュアルデータ で検索



エイズなお高止まり (HIV)



梅毒再び勢い 5年で5倍



(注)世界保健機関(WHO)は、1年間の新規患者が人口10万人あたり10人以下の国を結核対策の進んだ「低まん延国」と定義している。先進国の多くは低まん延国で、厚生労働省も2020年までに10人以下に抑えることを目標に対策に取り組んでいる